

杉本・樋口両市議、くわはら候補とともに

県の特養ホーム増設で厚労省と交渉 介護保険で障害者と交渉

二月十五日、杉本・樋口両市議は、参院選予定候補のくわはら加代子さん、五十嵐完二県議らとともに上京し、各省庁に県民要求をしめして善処を求めました。

県の計画を上回った増設を

衆議院第二議員会館の日本共産党応接室に、厚生労働省の三人の実務担当者をして話を進めました。

新潟県の特養ホームの建設計画は、九〇〇二床ですが、すでに八八―四床が整備されています。しかし介護保険導入後、「入所待ち」のお年寄りが4000人を超えたことから、「県の計画を上回った増設」が求められています。

「現在の計画の中では難しいが、平成十四年度の見直しで、県の計画が増えれば可能。」ということでした。この中で、上越市の特養ホーム(国府の里)七五床が十三年度から十二年度に繰り上がり、三和村(五〇床)も十三年度採択が明らかになりました。

介護保険、豪雪地の特別加算

介護保険の特別加算は、「事業所が対象地に所在すれば加算」となっていますが、「対象地の被介護者を介護する場合に加算」が妥当ではないかと問題提起。「確かにその方が合理的だが、実施方法をどうするか」との答えでした。

大雪対策に特別交付税の増額を

十四年ぶりの大雪で、住民の消費も自治体の支出も例年以上に増えています。自治財務局長に会い、特別交付税の増額を要望しました。

「今年度は、北海道の有珠山噴火、三宅島の噴火、名古屋の水害、鳥取西部地震と続き、太平洋側にまで雪が降った。支出要因が多く、調整に苦慮している。三月に県のヒヤリングを行う。」とのことでした。

この交渉の交通費には、「市政調査費」を活用しました。引き続き、要求実現に努力します。

二月十九日、上越市は平成十三年度の予算案を発表しました。その特徴の一つは、土地開発公社が買いあさってきた土地を上越市が買い取り、いわゆる「ハコ物行政」が始まることとしてのことです。第二に、そうしたハコ物に大金をつぎ込むために、「財政規模の拡充」と称して市町村合併を推進しようとしています。さらに第三には、介護保険料、下水道料金、市営住宅の駐車場有料化など市民負担を強めていることです。

介護保険料、大幅値上げ

四〇歳から六四才までの国保加入者(2号被保険者)の介護保険料が、一人当たり年額二八、九一五円から三三、四二五円へ三、五一〇円もの大幅値上げです。ますます「払いたくても払えない」状況になります。この取り立てのために、「保険証の取り上げ」を打ち出しています。また将来、国保税そのもの

上越市平成13年度予算案を究む

介護保険料、下水道料金など値上げ

の引き上げも公言しています。

下水道料金は1割近く

下水道料金は、1立方m当たり平均一五八円から一七二円へと九・三%もの値上げです。標準世帯で一ヶ月一、九八二円から三、二五七円に二七五円も負担が増えます。

市営住宅の駐車場も

市営住宅の駐車場は、これまで無料でした。「県営住宅の駐車場料金が有料になる」のに合わせてということですが、「地方から国を変える」といいながら、国や県の悪政にならない、同調するというのでは、「言っていることとやっていることが違う」ということになりました。

【訂正】

前号(175号)の裏面の表の金額の単位は、千円です。一九九八年度は、三月十八日以降のものだけで3件です。

上越民報

2001年2月25日 176
日本共産党上越市議員会
日本共産党上越市議会議員団
上越市五智1丁目2番12号
TEL 43-1890 FAX 43-1875
編集 杉本敏宏 発行 樋口良子
TEL 24-3787 44-6802
FAX 24-3832 44-7004
http://web.joetsu.ne.jp/~t-sugi/

除雪にかかわるみなさんの声、市に届けました

「十五年ぶりの豪雪」といわれています。久しぶりの雪で、市民のみなさんから除雪に対する要望がたくさん寄せられています。日本共産党議員団では、その都度、市に要望を伝え、対策を求めてきました。そのいくつかを紹介します。

保育園への歩道、除雪して

東本町保育園は、雁木から高土町の方に50メートルほど入った所にあります。「この歩道を除雪して」という声が、若いお母さんやお年寄りから寄せられていました。杉本敏宏議員は、町内会長からも要望していただくとともに、市の道路課に出向き改善をお願いしました。

「今年を対象路線に入っていないが、対応する。来年度から入れるように検討する」との回答でした。

稲田橋の歩道も

一月二〇日、大方の除雪が進みました。ところが稲田橋の歩道が除雪されていません。城東中へ通う生徒が車道を歩いたり、お年寄りが欄干との隙間を歩いたり、危険がいっぱいでした。



稲田橋左岸の雪捨て場は、中央橋の架け替えで設けられたものです。人家が近いため、ダ

夜間の雪捨て自粛を

高土町のさくら工房は、障害者の方々が多数出入りします。しかし、この除雪はいつも後回しになっているようです。

「何とかありませんか」の声を、杉本敏宏議員は、市に届けました。

さくら工房周辺の除雪

杉本議員が市に連絡すると、「県の管轄ですが、すぐ連絡します」とのことでした。翌日には、きれいに除雪されていました。

排雪しわすれ?

東本町5丁目から北城町への市道は、狭い道路で「トラックが雁木にぶつかりそう」との苦情が出るほど、凸凹になっていました。一月十八日、東本町3丁目5丁目の排雪が行われましたが、ここが残されてしまいました。

「忘れてるんじゃないか」の声に、十九日杉本議員が道路課に確かめたところ、「重機が大きくて入れなかった」ため、その日のうちに排雪されました。



枯桑

議論になってきた

杉本敏宏議員の質問

左の二つの新聞記事をご覧ください。

「元日営業をめくり賛否」の記事では「問題提起は上越市議会でも行われた経過もある」と述べていますが、これは平成八年十二月議会で杉本議員が提起しましたが、有効な手が打たれなかったために、平成九年十二月議会で「行政がこうしたことに手をこまねいているのではなく、積極的に」と再度質問したものです。その後手は打たれず、放任状態でした。

また、平成十一年六月議会では、近隣の諸県ですすでに空中散布は中止していることから、「環境先進という上越市でなぜ農薬の空中散布か」と取り上げました。今度ようやく「平成十七年に上越市がへり使用農薬散布を全面中止」と言うことですから、五年も先の話です。直ちに中止すべきでしょう。

元日営業めぐり賛否

出席首長ら熱い論議

市町村連絡協

伝統文化が営業の自由が競争原理と商場の厳しさを生み出すことになり、上越市で開かれた上越地方市町村連絡協議会（会長・宮崎賢上越市長）の理事会で、大型店舗を中心とした元日営業の是非が議論された。問題提起した市町村長は、元日営業の是非が、市民生活に与える影響をめぐり、熱い議論が展開された。市町村連絡協は、元日営業の是非をめぐり、市民生活に与える影響をめぐり、熱い議論が展開された。



上越市